

山口県がん化学療法指導者養成研修会

「高齢者がん化学療法」開催報告

山口大学医学部附属病院
腫瘍センター事務局
原田幸恵

平成31年3月9日（土）に山口大学医学部附属病院主催山口県がん化学療法指導者養成研修会がANAクラウンプラザホテル宇部で開催されました。「がん対策基本法」および「がん対策推進基本計画」に基づき企画された研修会で、山口県の各地域におけるがん化学療法の医療レベルのさらなる向上を図るために、各地域の指導的立場にある医療人を対象として企画された指導者養成研修会を実施しております。

当院の吉野茂文腫瘍センター副センター長の開会の挨拶に始まり、医師、薬剤師、看護師、MSWのそれぞれの立場からの講義、施設別のワークショップが行われました。講義はまず、「高齢がん患者の評価法について」本院の吉野医師より説明がありました。次に、「高齢者における抗がん剤投与時の注意点について」本院の植松薬剤師より、さらには、「高齢がん患者の化学療法について」本院の吉野医師より、また、「高齢がん患者の看護について」阿部看護師と沖村看護師より講義があり、最後に「高齢がん患者におけるMSWの役割について」沼ソーシャルワーカーより分かりやすく説明がありました。

ワークショップの症例提示の後、指定された症例について各施設で検討を行いました。問題点を抽出しあい情報共有し解決策を考えて、最後に発表していただきました。研修会全体を通じて様々な意見や質問が活発に出され、参加者の真剣さや意欲の高さを感じることができました。

参加者からは「高齢者の患者を評価した上で、医療者が情報共有し治療・支援することが大事だと思った。」「高齢者機能評価ツールの必要性が理解出来ました。これから後期高齢者が増加する中で、どのように治療選択をするのかというタイミングで客観的なデータの1つとして活用していきたい。」「多職種で事例検討を行うことによって、総合的な視点で患者さんのことを考えることにつながったと思う。評価項目の種類を知れて勉強になった。」など多くの意見が寄せられ、有意義な研修会となり無事終了することが出来ました。

《研修会風景》

講義風景



ワークショップ



各施設からの発表



修了証書授与

